

第57回 コンパス薬局スキルアップ勉強会

2016.08.25 佐藤

下行性疼痛抑制系賦活型疼痛治療薬 ノイロトロピン錠 4単位

(一般名：ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液)』

日本臓器製薬 佐藤様

参加者：川原、小西、作佐部、友定、生越、佐藤(綾)、阿部、梅津、伊藤、

『ノイロトロピン（一般名：ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液）』は、痛みを抑える神経（下行性疼痛抑制系）の働きを賦活化することで痛みをやわらげる薬である。

外傷や炎症といった通常の痛みから、ロキソニン（一般名：ロキソプロフェン）等の一般的な鎮痛薬では効きにくい神経の痛みにまで、幅広く効果が期待できる。

この薬の成分は動物からの抽出物で、様々な成分が含まれる。大きく4分画することができるがそれぞれ単体では鎮痛効果は示さない。そのうちのどの成分がどう作用するのか、作用の本体はどの成分なのか、詳しいところはわかっていない。

【警告】

なし

【禁忌】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】

帯状疱疹後神経痛、腰痛症、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、変形性関節症

【用法・用量】

通常、成人には1日4錠を朝夕2回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

『用法・用量に関連する使用上の注意』

※帯状疱疹後神経痛に対しては、4週間で効果の認められない場合は漫然と投薬を続けないよう注意すること。

【副作用】

承認時までの調査では1,706例中89例（5.2%）に発疹、蕁麻疹、胃部不快感、悪心・嘔気、食欲不振等の副作用が現れたが、そのほとんどが軽微である。

【特徴】

- ・下行性疼痛抑制系の働きを高めることで脳が感知する痛みの信号を減らす作用や、末梢の血流改善作用、痛みや炎症に関与するブラジキニンの遊離を抑制する作用によって鎮痛効果を発揮する。
- ・NSAIDs等の他の鎮痛炎症薬との併用が可能である。
- ・用量依存的に効果を発揮する。
- ・薬価が安価である。

【考察】

ノイロトロピン錠は神経障害性疼痛の第二選択薬とされている。セレコックス、リリカに次いで使用頻度が高くなっている。他剤との併用が可能であること、安価であること、副作用が少ないこと、用量依存的に効果を発揮すること等、非常に医師が使いやすいことがその要因と考えられる。

【質疑応答】

- Q. 本剤は1日4錠を朝夕2錠ずつで服用することが一般的であるが、3錠を毎食後で服用する様指示された処方を見ることがある。
- A. 用量依存的に効果を発揮するものであるから、その様な使い方でも問題はない。

以上